

葉」に比較するとやや劣る。しかし脂分含量は「万葉」より高く、「北進」と同程度である。

奨励範囲

「万葉」と適宜配合して栽培することが安全増収上望ましいが、多肥性であるから瘠薄地帯は避けたほうがよい。

試験場名	植付期	刈取期	刈取期における			ha 当り 収 量			採脂率	試験年次
			草丈	分枝数	葉数	生草	乾草	取卸油		
北見支場 国立農試 遠軽研究室	月日 5.21	月日 9.21	cm 87.0	本 41	枚 407	kg 22,971	kg 6,691	kg 43,192	% 55.8	昭和 年 26~32
	—	9.中	110.0	45	543	34,250	9,540	68,950	64.0	27~28

XIV スエーデンかぶ

(1) ネムロルタバガ

来歴ならびに育成経過

北海道立農業試験場根室支場において、昭和21、22の両年に、根釧地方の地方種を蒐集して適品種の選抜育成を行なっていたが、そのうち根室町1農家の集団から優良系統を選抜し、昭和23年に降集団選抜ならびに生産力検定予備試験を行ない、昭和26年より生産力検定試験を行なったところ、優良と認め昭和29年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 草丈、葉数、根周は「マゼスチック」と大差ないが、姿勢は「マゼチック」がやや直立であるのに対し、この品種は中間である。
2. 地上部の根色は赤紫色で、地中部の根色は白色であつて、肉色も白色である。
3. 白腐病に対する抵抗性は、「マゼスチック」よりはるかに強く、「せんだいかぶ」よりもやや強い。
4. 根部収量は「せんだいかぶ」よりも多収で、「マゼスチック」と比較すれば、白腐病の多発年には多収を示し、本病の少ない年には多少減収になる。

5. 乾物含量は、茎葉はその他の品種と大差なく、葉根では多少劣る。

奨励範囲

根釧地方特に内陸部の白腐病多発地帯に適する。

試験場名	収 穫 期			ha 当 り 収 量			白 腐 病		試験年次
	草丈	葉数	根周	葉 根		茎葉重	罹病率	被害度	
				根 重	乾物重				
根 宝 支 場	cm 47.9	枚 12	cm 44.3	kg 47,483	kg 5,085	kg 8,160	% 10.0	— 0.18	昭和 年 24~33
天 北 支 場	48.3	15	35.7	50,998	—	15,658	14.1	—	28~33
宗 谷 支 場	41.5	13	39.2	61,230	—	11,230	—	—	33

(2) マゼスチック1号 (MA—1号)

来歴ならびに育成経過

昭和12年に優良品種に決定普及された「アセスチック」について、北海道立農業試験場根宝支場において昭和26年と昭和28年に、白腐病耐病性を主要目標として優良母根を選抜し、集団採種を行ない、その後も集団選抜をつづけるとともに昭和30年以降は「MA—1号」の系統名を附し、生産力検定を行なった結果優良と認めたので、昭和34年1月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 草姿はやや直立、葉色はやや淡赤紫、葉柄色は生育最盛期には下部淡赤紫を呈し、収穫期における地上部根色は鮮赤紫色、地下部根色および肉色は淡橙色（クリーム色）を呈す。
2. 頸は基本品種よりやや長く、根形は基本品種が大きい球形に対し、この品種は円錐形である。
3. 白腐病の被害は「ネムロルタバガ」と大差なく、「せんだいかぶ」、「ホワイトフレッツシユドネツクレス」より少ない。
4. 葉根収量は「ネムロルタバガ」より約1.5割多く、「せんだいかぶ」、「ホワイトフレッツシユドネツクレス」より2割位多い。宗谷、天北両支場においても多収性を示している。

奨励範囲

現在の優良品種の中では最も白腐病に強いとされている「ネムロルタバガ」は従来のように、根釧内陸特に白腐病多発地帯の適品種とし、従来多発しなかつた地帯では「マゼスチック」、「せんだいかぶ」、「ホワイト・フレツシュド・ネツクレス」をこの品種におきかえて奨励する。

試験場名	白腐病罹病率	収穫期における			ha 当り 収 量		無病個体1ヶ平均重	試験年次
		草 丈	葉 数	根 周	葉根重	茎葉重		
根室支場	3.0	49.3	16	45.0	51,990	9,890	1,790	昭和 年 30~33
天北支場	5.8	53.2	16	34.3	59,350	13,893	—	31~33
宗谷支場	0	46.0	13	37.1	67,870	9,810	—	33

XV 牧 草

禾本科牧草

(1) オーチャードグラス・フロード

来歴ならびに育成経過

この品種は農林省北海道農業試験場畜産部において昭和28年スエーデン種子協会試験場より輸入し、昭和28年から同32年まで5ヶ年間試験を行ない、昭和33年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

晩生型で在来種に比べて出穂、開花は14日前後おそい。多葉型で葉長、葉幅は比較的大きく、耐寒性は大で、降雪直前までよく緑葉を維持する。耐病性は在来種に比べてまさり、採草用品種として再生力、早春萌芽が旺盛である。

奨励範囲

1. 北海道におけるオーチャードグラス栽培地帯での栽培に好適する。
2. 赤クロバーと混播して乾草生産を行なう場合、赤クロバー中生種とほぼ開花期が同じなので、晩生種との混播利用も有利である。
3. オーチャードグラスは開花後急速に粗剛化し、きわめて刈取適期は短か

いから、早、晩生品種の作付配合は乾草品質の向上、労力配分上有利と考えられる。

4. オーチャードグラス在来種は早生型に属するから、赤クロバー早生型品種との混播利用が有利である。

試験場名	出穂期	開花期	草 丈		ha当り収量		乾 燥 率		試験年次
			1 番草	2 番草	生 草	乾 草	1 番草	2 番草	
天 北 支 場 国 立 農 試 畜 産 部	月日 5.30	月日 7.16	cm 107.5	cm 83.4	kg 34,490	kg 9,380	% 27.20	% —	昭和 年 26~28
	6.10	6.27	112.7	71.5	22,878	6,410	28.03	25.39	28~32

荳 科 牧 草

(2) 赤クロバー・マンモスクロバー

来歴ならびに育成経過

この品種は農林省北海道農業試験場畜産部において昭和29年カナダの中央試験場より輸入したもので、昭和30年から昭和32年にいたる3ヶ年間にわたって、その特性と収量の調査を実施し、昭和33年優良品種に決定した。

特 性 概 要

晩生1回刈種で、植物体表面に多くの繊細な毛茸を有する。茎は開花前までは多汁質で軟かく緑色を呈している。草丈高く伸長し、初年目生育は緩慢で開花をみないが、2年目以降は極めて旺盛な生育をする。開花期は2月20日前後で、2番草はほとんど開花しない。寒冷地では1回の刈取りに終る。

奨 励 範 囲

1. 原則的には寒冷地域で赤クロバーの2回刈取りが不可能な地帯に奨励しうる。
2. 前記以外の地域においても、牧草地の赤クロバーが第3年目以降次第に枯死株を増加するから、赤クロバー在来種と本種との混播利用は、牧草地の栄養生産性を高め、乾草品質の改善上望ましいと考えられる。
3. 本種は成熟が進むと茎は粗剛化する傾向がある。乾草にする場合は刈取

りを早目に行う方がよい。

4. 2回刈種に比べて土地の酸性と瘠薄に耐える力が大きいとされているから土壌改良を目的とした利用も有利である。

試 験 場 名	開花期	草 丈		ha当り収量		乾 燥 率		試験年次
		1番草	2番草	生 草	乾 草	1番草	2番草	
	月 日	cm	cm	kg	kg	%	%	昭和 年
根 室 支 場	7.31	55.1	10.3	16,553	2,977	18.70	—	30~32
天 北 支 場	6.21	53.5	21.1	51,235	9,100	18.10	—	30~32
宗谷支場(普通地)	6.27	55.3	46.3	33,390	5,200	—	—	33
宗谷支場(重粘地)	6.24	53.3	40.1	27,730	4,970	—	—	33
国立農試畜産部	7. 5	81.2	40.5	31,048	5,789	18.82	17.59	30~32

(3) 赤 ク ロ バ ー ・ サ イ ロ

来歴ならびに育成経過

この品種はスウェーデンにおいて Merkur より選抜した品種で、外観は Merkur に類似している多葉型品種である。この種子は昭和28年スウェーデン種子協会試験場より輸入し、北海道立農業試験場根室支場および天北支場において昭和30年から昭和32年にいたる3ケ年間にわたつて、その特性および収量調査を実施し、昭和33年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

中生型標準の「ドラード」より2番草の生育は劣るが、常に茎数多く葉部割合が高い。収量は「ドラード」より多収であるが、2番草はやや劣る。1番草の開花は「ドラード」より7~10日おそいが、2番草はほぼ同時期中で中生型に属し、チモシーの早生型品種と刈取期が一致する。炭疽病の被害少なく永続性も大きい。

奨 励 範 囲

1. 天北、根釧地域の栽培に恰適する。
2. 前記地域においては「ドラード」に代わる中生型品種として、チモシー在来種との混播利用に適する。

試験場名	開花期		収穫期		草丈		ha当り収量		乾燥率	試験年次
	1番草	2番草	1番草	2番草	1番草	2番草	生草	乾草		
根室支場	月日 7.24	月日 —	月日 8.12	月日 9.23	cm 53.5	cm 19.5	kg 17,780	kg 3,210	% 17.9	昭和 年 30~32
天北支場	6.18	7.23	7. 1	8.11	66.4	26.2	57,415	9,875	17.1	30~32

(4) ラデノクロバー

来歴ならびに育成経過

「ラデノクロバー」の起源は正確には知られていないが、約50年前にイタリアのラデ地方に起源を殆し、自然淘汰によつて改良されてきたものといわれている。この種子は米国より輸入したもので、北海道立農業試験場天北支場において昭和26年から昭和28年まで3ヶ年間品種比較試験を行つた結果、従来の牧草に比べて多収であり、すぐれているので昭和29年2月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 性状は白クロバーの大型の品種ともみられ、普通種に比し耐寒性が劣る。
2. 茎は匍匐性で地上に接近して伸長する。よく伸長した節の部分からは根を発生する。
3. 刈取後の再生力はきわめて旺盛で、特に第2年目以降は他の牧草を圧倒する傾向がみられる。
4. 水分は多いが蛋白性含量は赤クロバーより多く、繊維含量は少ない。赤クロバーに比べ飼料価値は高い。

奨 励 範 囲

永年性放牧草で、温暖な気候に適するが、気候寒冷かつ湿潤な土壌においてもよく繁茂し、耐陰性が大である。比較的浅根性であるから作土の浅い土壌でも生育は良好である。原則として放牧地用として利用すべきで、乾草用としては不適當である。

試験場名	開 花 始		刈 取 期		ha 当 り 収 量						試験 年次
	1 番刈	2 番刈	1 番刈	2 番刈	生 草 重			乾 草 重			
					1 番刈	2 番刈	計	1 番刈	2 番刈	計	
天北支場	月日 6.19	月日 7. 4	月日 7.15	月日 8.17	4,262	2,610	6,872	494	345	839	昭和年 26~28

(5) ルーサン・グリム

来歴ならびに育成経過

この品種は1905年ドイツ人 Wendelin Grimm 氏によつてアメリカのミネソタ州にもたらされ、50年にわたる選抜淘汰の結果育成された耐寒性品種である。雑色種に属し、アメリカでは北部諸州にその栽培が奨励されている。種子はアメリカより導入し、北海道立農業試験場天北支場において昭和29年から昭和32年まで4年間試験し、昭和33年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

草型は直立型で花色は濃紫色、茎葉の毛茸は顕著でない。供試種子は黄化個体の混入はみられなかつた。播種当年の生育は他の品種に比べ旺盛で、再生力が大きく、2年目以降は年3回の刈取りが可能で、特に耐寒性にすぐれ茎数、茎葉比も大である。

奨 励 範 囲

天北、根釧地域の栽培に好適している。

試験場名	開 花 始			収 穫 期			刈取当時の草丈			ha当り収量		乾燥率	試験 年次
	1 番刈	2 番刈	3 番刈	1 番刈	2 番刈	3 番刈	1 番刈	2 番刈	3 番刈	生草	乾草		
	月日	月日	月日	月日	月日	月日	cm	cm	cm	kg	kg	%	
天北支場	7. 3	7.29	9.10	7. 6	8. 7	9.30	96.4	57.5	45.2	37,655	9,090	23.5	昭和年 29~32
宗谷 支場	酸性 土壌 7.14	—	—	—	—	—	94.6	69.1	—	23,364	7,733	—	30
	酸性 矯正 7.14	—	—	—	—	—	111.7	65.6	—	33,974	12,765	—	30

(6) ルーサン・デユピユイ

来歴ならびに育成経過

この品種はフランスで育成され、昭和28年アメリカ農務省中央研究所より

輸入したもので、農林省北海道農業試験場畜産部において昭和29年から昭和32年まで4年間試験し、同33年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

早生型で道産在来系統に比べて開花は4日ぐらい早い。草型は直立型で花色は濃紫色、茎葉の毛茸はやや顕著である。播種当年の収量はやや劣るが、2年目以降は生育旺盛で再生力強く、年3回刈取りが可能である。斑葉病の被害は少ない。

奨 励 範 囲

北海道中部以南地域の栽培に好適している。なお排水良好な肥沃地を選び土壌酸度は少なくとも pH6.2 に酸性矯正することが必要である。

試験場名	開 花 期			草 丈			ha当り収量		乾 燥 率			試験 年次
	1番 草	2番 草	3番 草	1番草	2番草	3番草	生草	乾草	1番草	2番草	3番草	
	月日	月日	月日	cm	cm	cm	kg	kg	%	%	%	
宗谷支場	6.30	—	—	62.9	63.1	45.4	23,140	4,920	—	—	—	昭和年 33
国立農試 畜産部	7.7	8.29	10	102.5	87.0	79.4	42,210	9,536	22.47	18.65	21.64	29~32

XVI そ 菜

ほうれん草

(1) 札幌大葉

本品種は北海道農業試験場作物部において昭和19年以来、「ピロフレー」から系統淘汰法により選抜育成したものであつて、昭和28年優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 姿勢は開張性で、葉形はやや楕円形の広葉でやや濃緑色をていし、葉面は縮皺少なく、葉数はやや少なく、葉柄基部及び根部は紅色をていする。
2. 純度高く、生長力もおう盛であるが、抽苔及び開花はおそく従つて収穫適期は長いので主として春播用に適するが、秋用並びに越年用にも供しうる。
3. 収量は「ピロフレー」に比し差はないが、品質が優良であり、また収穫